

環境報告書2016 環境マネジメントシステムの概要 資料

平成27年度 部局独自の取り組み

環境目標の達成度評価基準



達成率100%以上



→達成率80%以上



→達成率80%未満

方針	目的	目標	具体的な取り組み	達成度 ()内は実績値		
教育	環境マインドの育成	教養教育における学際的環境教育システムの構築	評価: 教養教育機構と教育学部では、学際的環境教育システムの構築が行われ充実に繋げる取り組みを設定して、すべて達成しています。			
			根拠	教養教育機構	教養統合科目において、現代社会理解実践(環境内部監査養成)を開催する。	(2回)
			教育学部	教養教育機構のカリキュラムにおいて、環境関連の授業を実施。	(2回)	
	環境教育カリキュラムの支援	学内外の環境教育プロジェクトへの支援と連携	評価: 教養教育機構、人文学部、工学研究科、地域イノベーション学研究科では、「学内及び学外の環境教育プロジェクトへの支援と連携」として取り組みを設定して、すべて達成しています。			
			根拠	教養教育機構	教養統合科目において、国際理解実践(国際環境インターンシップ)を開講する。	(1回)
			人文学部	総合環境研究センターの第2期中の研究成果を取りまとめる。	(1回)	
工学研究科			国際環境教育研究センターの委員会審議内容を、工学研究科教授会で報告、情報を共有し、支援と連携を促進する。	(11回)		
		地域イノベーション学研究科	エアコンのリモコンの近傍に冷暖の適切な設定温度を掲示し、構成員全員が意識し行動に努める。	(2回)		
			博士前期課程と博士後期課程の研究内容に関するプロジェクトマネジメント調査書の検討事項の一つに環境問題やエネルギーコストを意識する項目を追加する。	(1回)		
			スマートキャンパス計画に積極的に参加し具体的に行動する。	(5回)		
研究	大学キャンパスや施設を活用した、地球温暖化防止、自然共生等の革新技術の実現化	スマートキャンパス(ソフト面)のMIEUポイントに関連した、学生・教職員が行う環境活動のリサーチ	評価: 教養教育機構、人文学部では、MIEUポイントに関連した部局独自の目標を設定して、年間通じてすべて達成しました。			
			根拠	教養教育機構	スマートキャンパス(ソフト面)のMIEUポイントを教養教育担当の教員及び受講の学生に周知する。	(2回)
			人文学部	「学部長と語る会」にて、学生の参加の有無についてヒヤリングを行う。	(2回)	
	部局の特性を生かした、環境研究の組織化	評価: 生物資源学部では、部局内の環境研究を普及するための目標を設定して、年間通じて達成しました。				
		生物資源学研究科	部局内の環境研究を呼びかけ、組織化を推進する	(2回)		
スマートキャンパスで導入した施設を最大限に有効活用するEMSの運用の構築	CO ₂ を削減するためにキャンパス内のエネルギー利用を最適化する方法を明らかにする	評価: 地域イノベーション研究科では、「学内での節電行動を通して、CO ₂ 削減量を最大化する方法を研究する」取り組みを設定して、すべて達成しました。				
地域イノベーション学研究科	学内での節電行動を通して、各部門のエネルギー需要を調整するとともに再生可能エネルギー等の利用を統合することによって、CO ₂ 削減量を最大化する方法を研究する。	(5回)				

環境報告書2016 環境マネジメントシステムの概要 資料

平成27年度 部局独自の取り組み

環境目標の達成度評価基準



達成率100%以上



→達成率80%以上



→達成率80%未満

方針	目的	目標	具体的な取り組み	達成度 ()内は 実績値																															
社会貢献	三重大学独自の環境主軸のUSR規範の検討と確立	USRの基に環境報告書に作成、環境情報発信のICT活用	評価: 教育学部、財務部と環境ISO学生委員会では、各部局における「環境情報の発信」に関する目標への取り組みを設定して、すべて達成しました。																																
			<table border="1"> <tr> <td>教育学部</td> <td>環境報告書に掲載する環境教育の26年度成果をまとめ、部局担当の国際環境教育研究センター員に報告する。</td> <td>(1回)</td> </tr> <tr> <td>根拠 財務部</td> <td>環境報告書作成資料の提供</td> <td>(1回)</td> </tr> <tr> <td>環境ISO学生委員会</td> <td>環境報告書の作成、環境学習などの実施による学外への環境知識の発信</td> <td>(8回)</td> </tr> </table>	教育学部	環境報告書に掲載する環境教育の26年度成果をまとめ、部局担当の国際環境教育研究センター員に報告する。	(1回)	根拠 財務部	環境報告書作成資料の提供	(1回)	環境ISO学生委員会	環境報告書の作成、環境学習などの実施による学外への環境知識の発信	(8回)																							
		教育学部	環境報告書に掲載する環境教育の26年度成果をまとめ、部局担当の国際環境教育研究センター員に報告する。	(1回)																															
		根拠 財務部	環境報告書作成資料の提供	(1回)																															
	環境ISO学生委員会	環境報告書の作成、環境学習などの実施による学外への環境知識の発信	(8回)																																
	USRの考えをもとに環境イノベーション(社会的意義のある新たな価値を創造し)を検討し環境報告書に作成して活用する。	評価: 地域イノベーション学研究科は、「USRの考えをもとに環境イノベーションを検討し環境報告書に作成して活用する」に対する目標への取り組みを設定して、達成しました。																																	
	根拠 地域イノベーション学研究科	大学の社会的責任(USR)としての環境イノベーションに関して、教職員と学生が話し合う場を提供する。	(2回)																																
	3.地域社会と協働の場として三重大学を活用し、環境情報の発信拠点とする。	キャンパス及びその周辺地域社会と学生とのコミュニケーション強化	地域社会と連携による、環境コミュニケーションの創出	評価: 各部局において、前年度(26年度)まで全学目標とした「ノーマイカーデーの実施」を継続して取り組みを実施し、すべて達成しました。また、教育学部では、「キャンパスや周辺の環境を活用し、地域の学校園を対象とした環境学習を実施」と、地域イノベーション学研究科では、「県内自治体と研究会の立ち上げ」では、独自の取り組みを設定し、すべて達成しました。																															
				<table border="1"> <tr> <td>教養教育機構</td> <td>ノーマイカーデーを実施する。</td> <td>(12回)</td> </tr> <tr> <td>教育学部</td> <td>ノーマイカーデーの実施</td> <td>(12回)</td> </tr> <tr> <td>保健管理センター</td> <td>ノーマイカーデーの実施</td> <td>(12回)</td> </tr> <tr> <td>企画総務部</td> <td>ノーマイカーデーの実施(通勤、出勤、その他を含む)</td> <td>(12回)</td> </tr> <tr> <td>財務部</td> <td>ノーマイカーデーの実施</td> <td>(12回)</td> </tr> <tr> <td>根拠 学務部</td> <td>ノーマイカーデーの実施</td> <td>(12回)</td> </tr> <tr> <td>施設部</td> <td>ノーマイカーデーの実施</td> <td>(12回)</td> </tr> <tr> <td>教育学部</td> <td>キャンパスや周辺の環境を活用し、地域の学校園を対象とした環境学習を実施</td> <td>(7回)</td> </tr> <tr> <td>医学系研究科</td> <td>ノーマイカーデーの実施</td> <td>(12回)</td> </tr> <tr> <td>地域イノベーション学研究科</td> <td>県内自治体と研究会の立ち上げ</td> <td>(4回)</td> </tr> </table>	教養教育機構	ノーマイカーデーを実施する。	(12回)	教育学部	ノーマイカーデーの実施	(12回)	保健管理センター	ノーマイカーデーの実施	(12回)	企画総務部	ノーマイカーデーの実施(通勤、出勤、その他を含む)	(12回)	財務部	ノーマイカーデーの実施	(12回)	根拠 学務部	ノーマイカーデーの実施	(12回)	施設部	ノーマイカーデーの実施	(12回)	教育学部	キャンパスや周辺の環境を活用し、地域の学校園を対象とした環境学習を実施	(7回)	医学系研究科	ノーマイカーデーの実施	(12回)	地域イノベーション学研究科	県内自治体と研究会の立ち上げ	(4回)	
				教養教育機構	ノーマイカーデーを実施する。	(12回)																													
教育学部				ノーマイカーデーの実施	(12回)																														
保健管理センター				ノーマイカーデーの実施	(12回)																														
企画総務部				ノーマイカーデーの実施(通勤、出勤、その他を含む)	(12回)																														
財務部				ノーマイカーデーの実施	(12回)																														
根拠 学務部				ノーマイカーデーの実施	(12回)																														
施設部				ノーマイカーデーの実施	(12回)																														
教育学部				キャンパスや周辺の環境を活用し、地域の学校園を対象とした環境学習を実施	(7回)																														
医学系研究科	ノーマイカーデーの実施	(12回)																																	
地域イノベーション学研究科	県内自治体と研究会の立ち上げ	(4回)																																	
スマートキャンパス広報活動	スマートキャンパスの研究成果を対外的に広める。	評価: 地域イノベーション学研究科では、研究成果を対外的に広めるために「表彰制度(エコプロダクツ大賞)に応募」をして取り組みは計画通りに実施しました。																																	
根拠 地域イノベーション学研究科	展示会や国の表彰制度(エコプロダクツ大賞)に応募	(3回)																																	
業務運営	エネルギー使用量の合理化	エネルギー使用量の合理化の実施	評価: 「エネルギー使用設備の合理化の実施」に対する目標への取り組みとして、施設部では、「各部局への使用量通知」を設定して、また、環境ISO学生委員会では「緑のカーテンの設置による冷房使用量の削減」を設定して、すべて達成しました。																																
		<table border="1"> <tr> <td>施設部</td> <td>各部局にエネルギー使用状況の通知</td> <td>(4回)</td> </tr> <tr> <td>根拠 環境ISO学生委員会</td> <td>緑のカーテンの設置による冷房使用量の削減</td> <td>(2回)</td> </tr> </table>	施設部	各部局にエネルギー使用状況の通知	(4回)	根拠 環境ISO学生委員会	緑のカーテンの設置による冷房使用量の削減	(2回)																											
	施設部	各部局にエネルギー使用状況の通知	(4回)																																
	根拠 環境ISO学生委員会	緑のカーテンの設置による冷房使用量の削減	(2回)																																
	紙の使用量の削減	紙の適正使用方法の継続と紙使用量の削減、および管理	評価: 環境ISO学生委員会では、紙の適正使用方法の継続のため「プリンターの印刷枚数を管理する」取り組みを設定して、年間通じて達成しました。																																
		環境ISO学生委員会	プリンターの印刷枚数カウンターとチェック表の二重チェックにより、管理を徹底する	(12回)																															
	廃棄物排出量の削減	廃棄物排出時の資源分別手順の確立と学内周知	評価: 廃棄物排出量の削減に対する目標への取り組みとして、財務部では、「分別状況を確認し、記録し、結果を周知」を設定して、また、環境ISO学生委員会では「リユース活動の推進、およびごみ分別の啓発」を設定して、すべて達成しました。																																
<table border="1"> <tr> <td>財務部</td> <td>室内ごみの分別状況を確認し、記録し、結果を関係者に周知する。(分別状況の良くない状態の場合は、必ず周知する。良い状態の場合は記録まで)</td> <td>(12回)</td> </tr> <tr> <td>根拠 環境ISO学生委員会</td> <td>リユース活動の推進、およびごみ分別の啓発</td> <td>(29回)</td> </tr> </table>		財務部	室内ごみの分別状況を確認し、記録し、結果を関係者に周知する。(分別状況の良くない状態の場合は、必ず周知する。良い状態の場合は記録まで)	(12回)	根拠 環境ISO学生委員会	リユース活動の推進、およびごみ分別の啓発	(29回)																												
財務部	室内ごみの分別状況を確認し、記録し、結果を関係者に周知する。(分別状況の良くない状態の場合は、必ず周知する。良い状態の場合は記録まで)	(12回)																																	
根拠 環境ISO学生委員会	リユース活動の推進、およびごみ分別の啓発	(29回)																																	
ISO14001規格の理解	学生委員がISO14001規格、三重大学EMSについての知識を獲得する	評価: 環境ISO学生委員会では、「学生委員を対象にEMS教育、環境関連科目の案内をする」ことを取り組みとして設定して達成しました。																																	
根拠 環境ISO学生委員会	学生委員を対象にEMS教育、環境関連科目の案内をする	(2回)																																	

※具体的取り組みに対する評価は、国際環境教育研究センターが平成27年度EMS年間実施計画書の実績からまとめた内容です。